

生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、人にとっても生きものにとっても、上質な公園空間の創出を実現する。

基本理念	基本方針	取組み項目	施策事業		
	① 豊かな水環境の保全	①-1 長期的な地下水かん養対策	地下水かん養	地下水かん養対策の継続（水源かん養林整備事業、水田湛水事業、等）【大住委員、水保全課】 節水対策や雨水再利用などの持続的な啓発（グリーンインフラ導入の検討）【皆川部会長、水保全課】	①-1-1 ①-1-2
		①-2 水質の保全・改善	水質保全	硝酸性窒素対策や地下水浄化対策の継続【大住委員、水保全課】 河川の水質調査の継続【水保全課】	①-2-1 ①-2-2
		①-3 流域のつながり（水循環）	水循環	水源かん養林で育まれた間伐材を使用したベンチの設置【大住委員】 上流域との交流イベントの実施（地下水を育む農産物や林産物の購入の促進）【大住委員、水保全課】	①-3-1 ①-3-2
		①-4 地下水のPR	発信	地下水について学び・楽しめるガイドツアーの実施【大住委員、水保全課】 地下水のめぐみ・大切さを伝える学習（講座、教材作成、サイン設置、等）【大住委員、水保全課】	①-4-1 ①-4-2
	② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生	②-1 自然環境の現状把握	状況把握	生物の生育・生息状況調査の実施（他地域とのつながり）【奥村委員、環境共生課】	②-1-1
		②-2 自然環境の保全・再生	在来種 希少種	生物の生育・生息環境の保全【皆川部会長、中島委員、田畑委員、大住委員】 生物の生育・生息環境の再生【皆川部会長、中島委員、田畑委員、坂梨委員】	②-2-1 ②-2-2
		②-3 外来生物の駆除（手法の検討）	外来種	外来生物の駆除（ボランティアの育成及び連携）【皆川部会長、中島委員、奥村委員、環境共生課】 外来生物の廃棄方法の適正化（食品化、堆肥化、再利用）【皆川部会長、中島委員】	②-3-1 ②-3-2
		②-4 自然と人との共存・共生・配慮のあり方（ゾーニング）	共存 共生	自然と人が共存・共生・配慮するゾーニングの設定【皆川部会長、中島委員、田畑委員】	②-4-1
	③ 歴史・文化の継承と活用	③-1 歴史的・文化的資源の保存と活用	保存 活用	旧砂取細川邸庭園の市指定文化財への指定と保存・活用【丸山委員、文化振興課】 国指定天然記念物「スイセンジノリ発生地」の保護【丸山委員、大住委員、文化振興課】 既存の文字碑を活用した魅力の発信【丸山委員】 庭園文化を活用した魅力の発信【丸山委員】	③-1-1 ③-1-2 ③-1-3 ③-1-4
		③-2 連続性・一体性の創出	整備	ストーリー作り、それと連動した共通サインや照明灯の整備【丸山委員】	③-2-1
		③-3 散策ルートの設定と活用	発信	散策ルートの設定と散策マップの作成・ガイドツアーの実施【丸山委員】 漱石を通じた歴史・文化の魅力発信【丸山委員】	③-3-1 ③-3-2
	④ 感じ・憩い・学び・発信する場としくみの整備	④-1 情報の集積	情報集積	江津湖の歴史・文化遺産や環境に関する情報の集積【奥村委員】	④-1-1
		④-2 魅力・価値の発信	発信	江津湖の情報を集積・発信するビクターセンター（仮）の検討【奥村委員、田畑委員、大住委員】	④-2-1
		④-3 環境教育、体験型プログラムの整備	教育	江津湖の自然に親しみ・楽しみ・理解する観察会等の実施【中島委員、奥村委員、大住委員】 江津湖の魅力や価値を伝えるガイドマップや教材等の作成【中島委員】	④-3-1 ④-3-2
		④-4 担い手づくり次世代への継承	継承	自然観察会や歴史・文化巡りを通じて新たな担い手や語り部を育成【環境共生課】	④-4-1

①－１ 長期的な地下水かん養対策

事業主体：行政

地下水かん養対策の継続

【背景】

長期的にみた地下水量の減少

【事業スキーム】

- ・上流域でのかん養対策の継続
- ①水源かん養林整備事業
（大津町、西原村、南阿蘇村など）
- ②水田湛水事業
（大津町、菊陽町）

【スケジュール】

長期（事業の継続）



（水源かん養林整備事業）



（水田湛水事業）

事業主体：行政

**節水対策や雨水再利用などの
持続的な啓発**

【背景】

他都市よりも多い1人1日あたりに使う
生活水の使用量

【事業スキーム】

- ・節水市民運動の継続展開

【スケジュール】

長期（継続）



（節水パレード）

目標
市民1人1日あたりの
生活水使用量
「218リットル」

①－２ 水質の保全・改善

事業主体：行政

**硝酸性窒素対策や
地下水浄化対策の継続**

【背景】

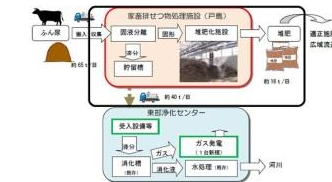
硝酸性窒素による地下水汚染への対応

【事業スキーム】

- ・農業団体等との連携した対策の推進
- ・熊本市東部堆肥センターの整備
- ・継続した水質監視（モニタリング）

【スケジュール】

短期～長期（施設の供用→水質監視）



事業主体：行政

河川の水質調査の継続

【背景】

継続的な水質の監視調査の必要性
（江津湖の水質は改善傾向）

【事業スキーム】

- ・河川・海域の水質・底質の調査
（河川27地点、海域4地点）

【スケジュール】

長期（調査の継続）



①－３ 流域のつながり（水循環）

事業主体：行政、企業

**水源かん養林で育まれた
間伐材を使用したベンチの設置**

【背景】

地下水の流れに関する認知度が低い

【事業スキーム】

- ・上流域の間伐材を使用したベンチの設置
- ・流域のつながりについての学習

【課題】

維持管理、市民や企業等からの寄付の確保

【スケジュール】

短期（スキーム検討→実施）



（ベンチイメージ）

事業主体：くまもと地下水財団

上流域との交流イベントの実施

【背景】

地下水を育む上流域との交流

【事業スキーム】

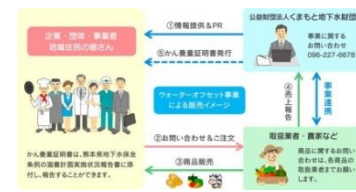
- ・ウォーターオフセット事業

【課題】

上流域との連携手法の検討

【スケジュール】

長期（事業の継続）



①－４ 地下水のPR

事業主体：くまもと地下水財団、行政

**地下水について学び・楽しめる
ガイドツアーの実施**

【背景】

地下水保全にむけた広報啓発活動

【事業スキーム】

- ・地下水を育むバスツアーの継続

【課題】

魅力の発信手法の検討

【スケジュール】

長期（継続）



（過去のツアーの様子）

事業主体：行政

地下水のめぐみ・大切さを伝える学習

【背景】

将来の担い手となる子どもたちの育成

【事業スキーム】

- ・節水チャレンジ小学校

【課題】

学校との連携、幅広い普及啓発

【スケジュール】

長期（継続）



（過去の様子）

②- 1 自然環境の現状把握

生物の生育・生息状況調査の実施

事業主体：行政、関連団体

【背景】

現状の把握ができていない
（希少種保全、外来種駆除には必須）
外来魚駆除の効果検証の必要性

【事業スキーム】

・調査の実施（既存調査の継続含む）
・関連団体との連携
・外来生物の駆除計画の策定
（駆除＋新たに出さない・逃がさない）

【課題】

事業費の確保、調査手法の検討

【スケジュール】

長期
（短期：手法検討、調査、計画策定）
（長期：モニタリング調査、計画見直し）



（生物調査状況）

②- 2 自然環境の保全・再生

事業主体：企業、市民

生物の生育・生息環境の保全

【背景】

江津湖の在来種の減少
多様なボランティア活動の実施

【事業スキーム】

・在来種・希少種の保全
・湧水エリアの保全

【課題】

企業・市民との連携、活動費の確保

【スケジュール】

長期（スキームの検討→実施）



（ミズアオイ保全活動）



事業主体：行政、関連団体

生物の生育・生息環境の再生

【背景】

生物の生育・生息の場の減少

【事業スキーム】

・行政と関連団体との連携による検討

【課題】

状況把握、手法の検討、人との共存・共生

【スケジュール】

長期（状況把握、スキーム検討→実施）



（現在の上江津地区）

②- 3 外来生物の駆除（手法の検討）

事業主体：行政、企業、市民、関連団体

**外来生物の駆除
（ボランティアの育成及び連携）**

【背景】

外来生物の増加

【事業スキーム】

・外来生物の駆除計画の策定
・条例の周知手法の検討
・既存ボランティア活動との連携

【課題】

各種団体との連携、駆除手法・順序の検討

【スケジュール】

長期（駆除計画の策定→実施）



（外来魚の駆除）



（外来植物の駆除）

事業主体：企業、行政

**外来生物の廃棄方法の適正化
（食品化、堆肥化、再利用）**

【背景】

外来生物の処分（手法、費用）

【事業スキーム】

・飲食店での外来魚の提供
・ブランド化

【課題】

飲食店との連携、外来魚の流通

【スケジュール】

長期（スキームの検討→実施）



（ブラックバス＆ピラミマス天丼：琵琶湖博物館）

②- 4 自然と人との共存・共生・配慮のあり方（ゾーニング）

事業主体：行政、関連団体

自然と人との共存・共生・配慮するゾーニングの設定

【背景】

江津湖の利用形態の変化

【事業スキーム】

・ゾーニング
（自然と人との係わり）
・自然環境に配慮した江津湖の再整備
（老朽施設の再整備）

【課題】

ゾーンの設定（魅力と質の向上、環境保全）
生態系への影響
景観への配慮

【スケジュール】

短期（現況把握、ゾーニング、設計、整備）



（諏訪湖創生ビジョン：長野県）

③－１ 歴史的・文化的資源の保存と活用

事業主体：行政

**旧砂取細川邸庭園の市指定
文化財への指定と保存・活用**

- 【背景】
文化財としての評価や保存・活用
- 【事業スキーム】
・名勝指定による現状変更等の制限
・文化財価値の広報、保存・活用
- 【課題】
関係者調整、保存・活用策の検討
- 【スケジュール】
長期（指定→保存・活用）



▲北側園路から ▲南から

事業主体：行政、市民

**国指定天然記念物
「スイゼンジノリ発生地」の保護**

- 【背景】
スイゼンジノリ発生地の保護
- 【事業スキーム】
・継続的な環境調査
・ボランティア団体との連携
- 【課題】
外来植物の繁茂、湧水量の減少、調査の継続
- 【スケジュール】
長期



事業主体：行政、関連団体

既存の文学碑を活用した魅力の発信

- 【背景】
既存文学碑の活用
- 【事業スキーム】
・文学碑の活用方策の検討
・観光ルートの設定
（文学碑と県立図書館との結びつき）
- 【課題】
既存文学碑の把握、発信手法の検討
- 【スケジュール】
長期（スキーム検討→実施）



（漱石の句碑）

事業主体：行政、市民、関連団体

庭園文化を活用した魅力の発信

- 【背景】
庭園景観の活用
- 【事業スキーム】
・庭園を活用した魅力発信手法の検討
・周辺を含めた庭園景観のルールづくり
- 【課題】
魅力の発信手法の検討
- 【スケジュール】
長期（スキーム検討）



（水前寺成趣園）



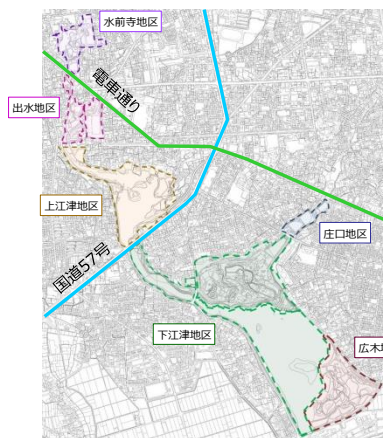
（旧砂取細川邸庭園）

③－２ 連続性・一体性の創出

事業主体：行政、企業、関連団体

ストーリー作り、それと連動した共通サインや照明灯の整備

- 【背景】
地区間の不連続性
（電車通り、国道57号）
- 【事業スキーム】
・関連団体と連携した連続性・一体性の創出
・統一した整備による一体性の醸成
・企業の協賛による施設の更新
- 【課題】
デザイン検討
自然環境への配慮
企業との連携
水前寺地区と出水地区の一体化
（遊歩道の整備）
- 【スケジュール】
短期（スキーム検討、計画→整備）



（水前寺江津湖公園区域図）

③－３ 散策ルートの設定と活用

事業主体：行政、関連団体、市民

**散策ルートの設定と散策マップ
の作成・ガイドツアーの実施**

- 【背景】
歴史的・文化的資源があまり知られていない
- 【事業スキーム】
・関連団体と連携した魅力発信の取組み
- 【課題】
魅力の発信、ボランティアガイドの育成
- 【スケジュール】
短期（スキーム検討→実施）



（秋のセルフガイドマップ）



（過去のガイドツアーの様子）

事業主体：行政

漱石を通じた歴史・文化の魅力発信

- 【背景】
江津湖の歴史があまり知られていない
- 【事業スキーム】
・漱石を通じた歴史・文化の魅力発信
- 【課題】
県市の連携、コンテンツの検討
- 【スケジュール】
短期（スキーム検討→実施）



（くまもと文学・歴史館 周辺散策マップ）

④－１ 情報の集積

事業主体：行政、関連団体

江津湖の歴史・文化遺産や環境に関する情報の集積

- 【背景】
歴史・文化に関する情報管理が不十分、環境に関する情報管理が不十分
- 【事業スキーム】
・組織が連携した調査・研究の実施
- 【課題】
情報の収集・共有
各種団体との連携手法の検討
- 【スケジュール】
長期（収集・集積、調査検討、実施）

④－２ 魅力・価値の発信

事業主体：関連団体、行政

江津湖の情報を集積・発信するビジターセンター（仮）の検討

- 【背景】
江津湖に関する情報管理が不十分
江津湖を総括的に学べる場が少ない
江津湖の魅力発信が不十分
- 【事業スキーム】
・関連団体が主体となった管理運営
・情報発信拠点の一元化
・江津湖の魅力を伝える新たな展開（展示コーナーの設置等）
- 【課題】
スキームの検討
（機能、管理運営、魅力発信手法等）
- 【スケジュール】
長期（スキームの検討→実施）



（リトル江津湖：サービスセンター）

④－３ 環境教育、体験型プログラムの整備

事業主体：関連団体、企業、行政

江津湖の自然に親しみ・楽しみ・理解する観察会等の実施

- 【背景】
生物多様性への馴染みが少ない
- 【事業スキーム】
・関連団体等が主体となった実施
・学校教育と連携した取り組み
- 【課題】
魅力あるコンテンツの検討
- 【スケジュール】
短期（スキーム検討→実施）



（ミズアオイ鑑賞会）



（ホタル観察会）

事業主体：行政、企業、関連団体

江津湖の魅力や価値を伝えるガイドマップや教材等の作成

- 【背景】
江津湖の魅力を感じ・学ぶモノが少ない
- 【事業スキーム】
・企業等と連携した魅力発信手法の検討
・学校教育と連携した取り組み・組織化
- 【課題】
魅力を伝えるコンテンツの検討
- 【スケジュール】
短期（スキーム検討→作成）



（冬のガイドマップ）

④－４ 担い手づくり、次世代への継承

事業主体：行政、関連団体、市民

自然観察会や歴史・文化巡りを通じて新たな担い手や語り部を育成

- 【背景】
自然と歴史・文化の次世代への継承
- 【事業スキーム】
・くまもとCUIと・まち・いきもんネットワークやくまもと水守を活用した人材育成・発掘
- 【課題】
登録団体の増加
歴史・文化の継承
- 【スケジュール】
長期

